

SHONAN

MAIL

しょうなんメール

Vol.124

湘南鎌倉総合病院

病院広報誌

就任の挨拶

湘南外傷センター 運動器・リハビリテーション懇話会

周術期における口腔ケア 鎌倉歯科医師会 連携協定

栄養管理士の簡単レシピ

鎌倉さんぽ 山あじさい



院長退任のご挨拶

社会福祉法人
湘南愛心会理事長

塩野 正喜



私は湘南鎌倉病院整形外科の一線を退いてから、9年間関連のクリニックや老健などの介護施設の責任者として働いていましたが、2006年4月に突然、徳洲会徳田虎雄前理事長から湘南鎌倉総合病院の院長に任命され、5月に院長に就任。以後11年1か月と長期にわたり院長を務めてまいりました。就任時、**徳洲会グループの理念「生命だけは平等だ」**をこの湘南の地で実現するために、病院の運営方針として、**【1. 患者さんの目線から病院をつくる】**その一環として487床から542床への増床を機会に汚い、臭い、暗いというイメージを一新するため和式トイレを全てウォッシュレットに変更し、暗い照明を全て取り換え、エントランスホールや廊下の壁や天井の張り替えをしました。**【2. 救急患者さんは決して断らない】**救急患者さんの受け入れ態勢を拡充し、総合内科の充実を図り救急総合診療科(湘南ER)を開設しました。**【3. 何時でも、何処でも、誰にでも最善の医療を届ける】**身寄りのない方を救急で受け入れ、他の病院で断られた患者さんを受け入れてまいりました。**【4. 医療人として医療の夢を自己実現する病院】**手首からの心臓カテーテル治療の循環器科、自然分娩を取り入れた産科、日帰り手術を日本の病院で初めて行った外科チーム、レーザー治療、乳房再建手術の再生医療を行う形成外科、脳動脈ステント治療の脳卒中診療科、拍動下バイパス手術の心臓血管外科、すべての内科患者さんを診る総合内科、血液浄化、下肢虚血に対する再生医療、腎移植、腎疾患全般に奮闘する腎臓病総合医療センター。24時間365日の体制で救急車を受け入れる日本でも有数の救命救急センター、ドクターヘリによる搬送を含めた重度外傷を受け入れる外傷整形外科、月100件の白内障手術を行う眼科、脳のみならず、脊髄・末梢神経も含んだ神経系すべてに関わる疾患の治療を行う脳神経外科、脊椎脊髄外科など、病院全体で緊急な患者さんに対し、必要なときすべての職員が参加してチーム医療を実行する病院に育ってまいりました。**【5. よき医療人を育てる研修病院にふさわしい陣容を整える】**などを掲げ、以後順調に、診療部門の拡大に努めてまいりました。2010年9月には、山崎から岡本の新病院に移転し、放射線治療や、医療安全体制の充実、院内感染防止の体制が整備され、許可病床も現在648床(可動病床619床)となり、国際基準の厳しい安心・安全な品質を要求される病院機能評価『JCI認証』を取得しました。また、地域の中核病院として神奈川県より救命救急センターの指定、災害協力病院指定、がん診療連携指定病院に指定されるだけでなく、文部科学省「科学研究費補助金取り扱い規定に規定する研究機関」の認定を受けることができました。



整形外科外来のスタッフと

院長退任にあたり、今まで湘南鎌倉総合病院を信頼し、支え、育てていただいた多くの皆様に感謝申し上げます。今後も更なる病院拡充のプロジェクトも続いています。益々のご支援をお願いいたします。





齋藤 滋 総長

私はこの度、総長を拝命しました。私はこれまで臨床一筋に患者さんと共に歩んできたつもりです。その働き方を変えるつもりはありません。しかし、この立場を拝命した以上、院長先生のご指示の下、各診療科部長の先生方、全ての医局員、また全ての病院職員の力を借りながら、この病院、そしてこのグループの立場をよりしっかりしたものにし、これにより日本および世界の医療に貢献していきたいと思えます。

私はこれまで30年間近くこの病院に勤務し、徳洲会での勤務の下で多くの職員と出会い、何よりも多くの患者さんの診断と治療を通して、医者として育ててもらってきたと思えます。これから多少でも多くの患者さんのために自分の力を発揮できるように私は頑張っていきたいと思っています。



また、それだけでなく全職員が医療人として働きやすい環境の中で、自己の人間性を十分に発揮することにより、皆それぞれの生き甲斐を見出しながら自分の人生をより豊かなものにしていき、その中で何時も素晴らしい医療を展開できるようになっていくことを望んでいます。私は、総長としてこの目的のために私自身の力を役立てていきたいと思えます。

医療というのは、医学という科学の裏付けの下で医療技術を代表とした医術により、それぞれの社会の制約条件の中で実現される、人々のためのもっとも重要な社会的活動です。そればかりでなく、最近は優れた医療を実現するためには膨大な情報を統合し、最適な治療法を選択可能とするために優れた情報処理能力が必要です。

さらには自らの閉ざされた世界の中だけではなく、開かれた世界の中で最新の情報を受け入れる必要があります。しかし、情報処理だけでは患者さんにつながることはできません。患者さんにつながるためには医療人それぞれが豊かな人間性を持つことが必要です。そして治療や診断の現場では高度で最先端の医療技術を常に保持していく必要があります。私はこれらのことを実現できるように総長として心を尽くしていきたいと思えます。未熟者の私ですがどうぞ皆様方のお力をお貸し下さい、よろしくお願ひします。



湘南鎌倉総合病院

就任のごあいさつ

院長 篠崎 伸明

当院は2010年9月1日に、鎌倉市山崎から岡本に新築移転をしました。当時、山崎での開院から22年経ち、新病院は手狭になった旧病院の2.5倍の面積で、免震構造・地上15階地下1階建て、病床数は648床（稼働病床619床）、屋上にヘリポートを備え、年々増加する救急車、急病患者さんに対応するため救急診療部は5倍に拡大、手術室、血管カテーテル室に直行する専用エレベーターを備えました。

それから7年経ち、地域の医療ニーズに応えるために、さらなる救急患者さんの受け入れ、がん患者さんの受け入れに対応していく必要性が求められています。そこで、この数年以内に完成を目指す、救命救急センター、外傷センターの新築、先進医療、包括的がんセンターの新築プロジェクトが始まりました。

当院は地域医療を第一に、さらに海外からの治療希望者を広く受け入れ、あらゆる言語、文化、宗教に対応していく準備を進めております。

また、旧病院跡地には医療大学の建設プロジェクトも始まっています。2020年度に第一期の看護学部の学生が入学する予定です。

病院はさらに2.3倍に大きくなりますが、最善

の医療を提供するということは、医療技術や知識だけではなく、まして最新鋭の医療機器でもありません。



将来構想に基づく外傷センター・先端医療センターの完成予想図

それは「すべての意味での心からのサービスを提供しよう」と、こだわり続ける私たちの心の中に存在すると思います。それがこの湘南鎌倉総合病院における共通の価値観でありたいと思います。

今後とも地域の方々に信頼され、安心・安全な医療を提供できる病院を目指してまいります。また、職員が生きがいを持って働きやすい環境作りの一環として、『職員が働きやすい病院機能評価』ホスピタリティの認証も受けています。これからも「生命だけは平等だ」の徳洲会の理念哲学を、この鎌倉の地で実現させるべく、これまで通り「年中無休、24時間オープン」、「救急患者さんは決して断らない」、「患者さんからは一切贈り物は頂かない」。

「患者さんの目線で病院を造る」を実行していきたいと思っております。





小林 修三

院長代行

～弱者を置き去りにしない医療

世界の先端医療を取り入れた医療の実現を～

「住民に愛され信頼される病院、来て良かったと言われる病院を目標に」

副院長として当院に着任して早くも20年の月日が経ちました。この度、2017年6月1日付けにて院長代行の辞令を受け、益々責任の重大さを感じています。これまで、内科の副院長として内科医療の質の向上を何よりの使命として多くの皆様の支援を受けてここまで参りました。例えば、電子カルテ導入・医療安全の体制化・オンコロジーセンター立ち上げ・NST稼働・再生医療・移植医療など鈴木隆夫理事長から多くのご支援ご指導を受けて推進して参りました。救命救急から先進医療そして穏やかなエンディングまで診療連携を推進し地域を包括した医療体制によって、多くの医師会の先生方からご指導を受け、また多くの住民から愛される病院となっています。また、医療法人の活動としましては、アフリカ14カ国への腎疾患診療の支援を現地に赴いて行って参りました。住民から愛され信頼される病院・来て良かったと言われる病院を目標としています。何より、患者さんに優しい病院作りを目指しております。当院は教育病院でもあり多くの診療分野の認定施設となっています。若い先生方の教育も重要な任務となっており皆様にはご理解ご協力をお願い申し上げるとともに、遠慮無いご指摘ご指導をお願いいたします。さらには、全国あるいは世界的にも活躍する診療科や医師が多く活躍し、日夜医学の進歩を目指して研鑽を積んでいます。こうした努力の成果が当院を受診されるすべての皆様方に1日でも早くその恩恵が行き渡りますよう病院運営上の配慮も行っています。「ひとの生き様・ひとの最後」を輝かしいものとするためには当病院関連の老健・特養・訪問診療との連携を強化し「地域総合医療センター」を体制化し、地域の先生方や福祉・行政関係の方々とも綿密な連携を取るべく努力しているところです。今後も、医療講演・院内音楽会やNPO法人癒しの医療を考える会などを通して多くの皆様方とともに、当院が地域の生活と文化の中心となるべく活動を行って参ります。

今後当院はさらに外傷センターや包括的がん診療の充実を中心に先端医療センター設立の増築を進めて参ります。救命救急はもとよりがん患者さんあるいは社会的弱者の方々、外傷後など心のケアはますます重要な問題となります。こうした精神的な緩和ケアまで含め、世界的に新しいカテーテルや内視鏡的外科手術・放射線治療や再生医療など次世代の新しい病院を目指します。新生児診療など小児科の充実やさらには世界的に見て後進国と言われるアレルギー疾患の診療体制の確立など1歩1歩進めて参りますので宜しくご理解ご協力さらにはご指導のほどお願いいたします。



葉山ハートセンター 院長 田中 江里



就任のご挨拶

この度、20年以上にわたり勤務してまいりました湘南鎌倉総合病院を離れ、6月1日付で葉山ハートセンターの院長に就任致しました。突然の人事発表であったこともあり、長年当院に通院して頂いた患者さんには多大なご不安とご迷惑をおかけしていることを、まずは心よりお詫び申し上げます。さて、多くの方が「どうして血液内科の医師がハートセンターに？」という疑問をお持ちだと思います。



これまで葉山ハートセンターは、高度先進心臓病センターとして良質・平等で最善の治療を行う病院として運営してまいりました。しかし、時代の変化とともに提供する医療サービスにも変化が必要です。心疾患もまだまだ多くの患者さんがいらっしゃいますが、医療技術の進歩によりカテーテル治療や心臓手術を受けた患者さんの予後・再発率は改善し、治療を要する方は減っています。

この10年で医療の進歩した領域はがん治療や抗体を用いた分子標的治療、さらには免疫療法に移ってきました。そして今は再生医療が進歩の最先端となっています。それと同時に患者さんの寿命は延びましたが、その方々の最期はやはり臓器不全になってきます。「心臓の手術をした患者は長生きをしているが、やがて心不全になってしまう。そのため高齢の慢性心不全患者は増加しているのだ。」と日本内科学会総会で講演がありました。こういった方々の治療は、湘南鎌倉総合病院のような超急性期病院だけでは担うことはできません。地域医療、さらに亜急性期をみる病院があって超急性期病院の役割も生きてくると思います。

葉山ハートセンターはこれまで通り心疾患の診療を続けてまいりますが、それと同時に、地域の皆様にも安心して利用して頂けるよう身近な医療サービスも提供していくように変革していきます。今後は、右記のサービスを充実させていく所存です。

1. 地域の一次救急としての役割

逗子市、葉山町の医療圏8万人前後の方々に対して一般内科、救急を含めた医療を提供します。これらは永続的に行えるよう、湘南鎌倉総合病院の救急総合診療科と連携していきます。まずは日中の一次救急診療を定着させることから開始し、徐々に夜間、休日の対応もできるように院内の整備、人材の定着を図ることとします。



2. 地域の亜急性期～慢性期の内科系疾患の入院受け入れ

地域の介護施設や在宅介護をされている方々の入院診療、あるいは他院で急性期医療を受けられて、その後の介護施設などに移られるまでの間の診療を受けていきます。疾患としては、軽症から中等症の感染症（肺炎、尿路感染症、腸炎など）、脱水、食欲低下などが対象の症状となります。



3. 人間ドックの整備

葉山は風光明媚な土地であり、東京オリンピックを控えて国際的にも知名度が上がるエリアであることから、質の高い人間ドックを提供していきます。海外の方々も受け入れてアピールし、リピーターを増やしたいと考えております。それに伴い今後は、語学能力のある方、ホテル業界などを経験されてきた方を職員として採用していきたいと考えています。



4. 心臓疾患の診療

これまで通り虚血性疾患（狭心症、心筋梗塞）、弁膜症、不整脈の診療は、今後も継続していきます。その為にも医師の確保に努力してまいります。



5. 町のヘルスケア相談窓口としての機能

小さな町であるからこそ自治体職員の方々と密に連絡をとり、開業医の先生とも連携していきます。地域に必要な医療、看取りの支援、ヘルスケアサービスをつなぐ相談窓口（コンピューターでいえば検索サイトの入り口になれるような機能）を病院内に備えていきます。

葉山ハートセンターの改革を地域の皆さんとともに実行していきたいと考えておりますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。



葉山ハートセンター

外来受診受付時間

月～金	午前8：30～午前11：30
	午後1：30～午後4：30
	午後4：45～午後6：45
土	午前8：30～午前11：30

〒240-0116
神奈川県三浦郡葉山町下山口 1898-1 TEL 046-875-1717

外来休診日 日曜日、祭日、年末年始

湘南外傷センター

運動器・リハビリテーション懇話会

5月27日(土)に当院外傷センター主催の『運動器・リハビリテーション懇話会』を医療従事者を対象に開催しました。

当日の講演内容 講演第1部

理学療法士 副主任 野田 玄

『当院における複数回の手術を要した 下肢骨折患者の理学療法』

下肢外傷により患部を固定中の患者さんは行動が制限されます。固定中でもできる運動・歩行は積極的に行い、廃用症候群の予防を行っています。重症患者に対しての離床、リハビリ時間以外での運動量の確保・向上にはまだ十分でないと考えており今後の課題です。



理学療法士 主任 一條 幹史

『当院での早期リハビリテーションの現状と課題』

湘南鎌倉総合病院では入院直後に多くの診療科でリハビリテーションを行っており、近年では呼吸器をつけている集中治療室患者の早期離床にも取り組んでいます。現状早期リハビリテーションを行う上で当院での事故件数は非常に少ないですが、もっと有効なリハビリテーションを展開するためには今後の課題としてリハビリプログラムが適正かどうかの検証と急変時に他のスタッフと共通認識で対応できる知識の習得が必要と考えています。



Young opinion

理学療法士
長塩 拓也



作業療法士
副主任
黒木 裕介



作業療法士 大橋 有香 『受傷後もしくは術後早期に実施する当院の ハンドセラピーの現状と課題』



患者さんが能動的に
リハビリを行えるような
創意工夫を行い
患者さんの可能性を
最大限に引き出す



講演第2部

特別講演『早期リハビリテーションの重要性』

岩手医科大学 リハビリテーション医学科

西村 行秀 教授

なぜ？

~私たちは早期から
リハビリテーションを提供しなければならないのでしょうか~

人間は1日寝ていると1%筋肉量が落ちます。30歳を過ぎると1歳毎に1%筋肉量が落ちるので、1か月ベッド上にいるということは30歳年をとるのと同じことになります。

それだけではなく心筋の萎縮や最大酸素摂取量の低下、骨密度の低下などマイナスな点ばかりです。最近の研究では運動後、筋肉からでるサイトカイン産生により、脂肪の燃焼や糖の消費、血管の若返り、心疾患の生命予後の延長や認知症にも良いという研究結果が出されています。

リハビリテーションは手術や投薬と同じ「治療」であるため、早期発見・早期治療が原則です。また薬と同じく量・強度に依存します。すなわち早期に高頻度・高負荷のリハビリを行うことが必要なのです。「治療」にはリスクが伴いますが、適切な医学的管理下で他職種との連携を図ることで高頻度・高負荷のリハビリを展開することが可能であり重要です。



【外傷センターにおけるリハビリとは？】

全国各地で外傷センターの整備は進んでいますが、救命治療や外傷治療のみならず、患者さんの機能面を見据えた手術からリハビリテーションまでの一貫した治療を展開している施設はまだほとんどありません。

当院の外傷センターは、外傷によって生じる後遺障害を回避し、早期社会復帰を目標としています。そのために、

手術後もしくは受傷後に早期にリハビリテーションを行い、治療方針を共有しながら途切れることのない一貫したリハビリテーションを提供することが重要です。その中で当院は日本のモデル施設となり、より多くの患者さんが機能や生活を取り戻せるように、一つ一つの経験の糧に、積極的に研究や教育などたゆまない努力を重ねていきます。



創外固定前後レントゲン

手術から
リハビリまでの
一貫した治療



積極的なリハビリの実施

【今回の講演における思い】

日本において、救命治療や外傷治療をゴールとせず、失われた機能を回復して社会復帰を最終目標とする外傷センターは、残念ながらあまりありません。しかし、私たちはそれを実現できるよう、立ち向かわなければなりません。

そのため、今回のセミナーで日頃から試行錯誤しながら取り組んでいることを、私を含め5名のセラピストが振り返り、発表しました。それは必ずや湘南鎌倉総合病院外傷センターから、皆さんの外傷センターに対する意識を変化させ、さらに外傷センターのあるべき姿を確立させることができるのではないかと思います。岩手医科大学の西村教授のご講演を踏まえ、もっと自らの知識と技術を磨き、リハビリテーション科全員で切磋琢磨していこうという、きっかけになるはずです。



リハビリテーション科
作業療法士 大橋 有香

当懇話会は「現状に甘んじることなく、もっと患者さんに対してできる努力はないのか」「もっと積極的にリハビリテーションを行うべきだ」という、土田センター長から私たちセラピストに対する叱咤激励により開催されました。

座長 理学療法士
主任 長塩 直子

- ▶懇話会お疲れ様でした♪
- ▼会場の様子



「再び適した状態になる」ことを意味する「リハビリテーション」は医療そのものです。しかし、残念なことに「急性期病院」であればあるほどリハビリテーションは軽んじられてきました。そこで、リハビリテーションのあるべき姿を取り戻すために、そのニューリーダーである西村先生をお招きしました。

これは「本来あるべき状態への回復」を目指す、まさに病院自体のリハビリテーションなのです。

湘南鎌倉総合病院 外傷センター
センター長 土田 芳彦



周術期における口腔ケア

鎌倉市歯科医師会 連携協定

5月25日(木) 湘南鎌倉総合病院は鎌倉市歯科医師会と「協力医療機関に関する協定書」を締結しました。これにより、同歯科医師会所属の歯科医院と協力し、周術期における口腔ケアに対して処置を行っていきます。

周術期における口腔ケアとは？

周術期とは、術前・術中・術後の手術前後の時期を指します。近年、手術後の免疫が落ちる期間に、口腔内の環境が原因で様々な疾患が引き起こされることが判明しています。そのため、周術期に口腔内を清潔に保つことが、感染症の予防につながります。

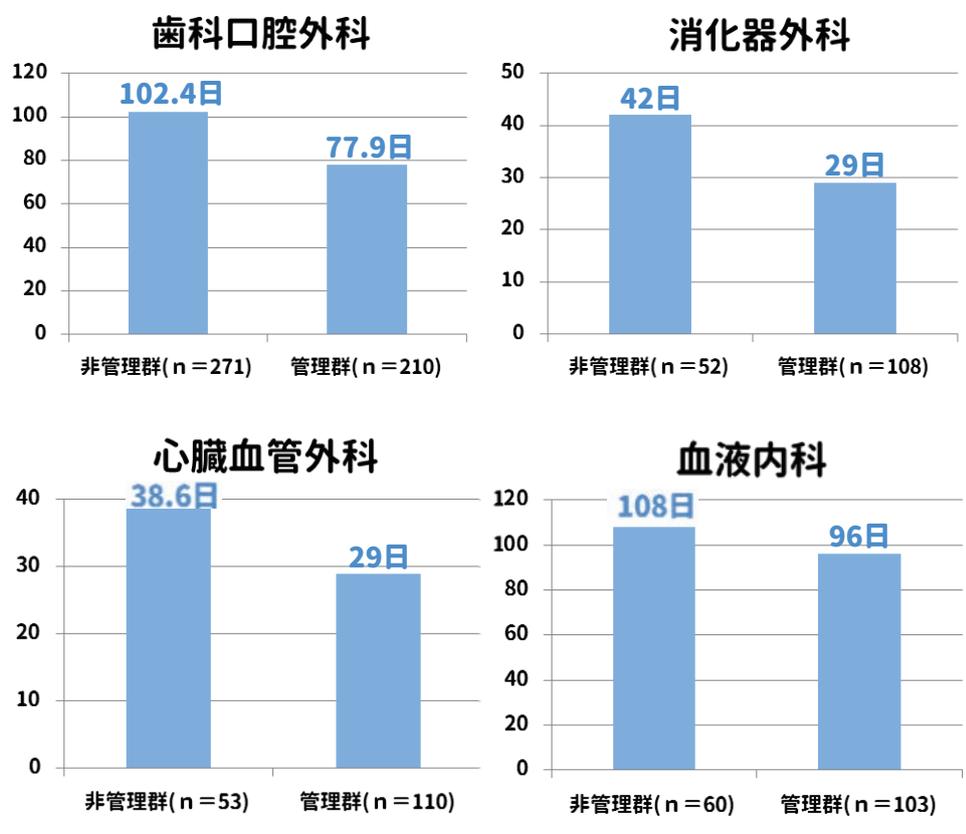
前述のように、周術期における口腔ケアは重要な役割を持っており、国の方針として医科（病院）と歯科（歯科医院）の連携が推進されています。

患者さんの健康のために、この度、当院でも鎌倉市歯科医師会と医科・歯科連携協定を締結しました。この連携協定によって、入院された患者さんが病棟に居ながらにして、周術期の口腔ケアを受けることができます。連携先である鎌倉市内の歯科医師が病棟を定期的に訪問し、専用のケアルームにて周術期の口腔ケアを施します。

主な対象は、抗がん剤治療の患者さん、心臓血管外科・脳神経外科の慢性期の患者さんなどです。患者さんには口腔ケアの前に医師からの説明の後、同意書に記名していただきます。かかりつけの歯科医院がある場合は、その際にお申し付けください。

出典：中医協2013.11.22資料より抜粋

口腔機能の管理による在院日数に対する削減効果



いずれの診療科においても在院日数の削減効果が統計学的に有意に認められ、その効果はほぼ10%以上あることが明らかになった。



【左二番目】 湘南鎌倉総合病院
塩野 正喜 院長(当時)
【中央】 鎌倉市歯科医師会
鶴岡 明会長

サインを終えた協定書を手にする
塩野院長と鶴岡会長



7月

旬のものを食べよう!

夏野菜で夏バテ・熱中症を予防しましょう。

夏野菜にはオクラ、かぼちゃ、きゅうり、トマト、とうもろこし、なす、ピーマンなどがあります。

夏野菜は色鮮やかなことに加え、水分を多く含み体を冷やす働きがあるため暑くて食欲の低下しやすい夏場に適した食材です。

今回はこの夏野菜を使用したレシピをご紹介します。

管理栄養士の 簡単レシピ

栄養管理センター
副主任 古旗 省吾

レンジで簡単★

「夏野菜のトマト煮」

1人前

カロリー：92kcal

たんぱく質：2g

脂質：6.3g

塩分：0.8g

材料(4人分)

- ・トマト……………2個
- ・なす……………2本
- ・ピーマン……………2個
- ・しめじ……………1パック
- ・ケチャップ…大さじ1
- ・オリーブオイル…大さじ2
- ・塩…小さじ1/2
- ・こしょう…少々



作り方

- 1 野菜を1cm幅に切る。
- 2 耐熱ボウルやシリコンスチーマーに野菜、調味料を入れ混ぜる。
- 3 電子レンジで8分間加熱し完成。

(加熱時間は家庭のレンジに合わせて調節してください。)

Point!

お好みで他の野菜やウインナーなどを入れても美味しく作れます。

What's? トマト



- ☑ トマトはナス科トマト属の1年生果菜で、**アンデスの高地が原産。**
- ☑ 全体的に**張りがある硬いもの、先は白い星型**がはっきり見えるものが新しく甘みのあるトマトのポイント。
- ☑ 日本では**露地栽培の旬は6~8月**といわれているが、本来は高温多湿に向いていないため**味的に最高の旬といえるのは春~初夏と秋の時期。**

これからの季節、コンロでの調理は暑くて大変と感じる方が多いと思います。

電子レンジは暑さを感じず調理できることに加え、簡単なため、料理が苦手な方にもおすすめです。

栄養管理センター 副主任
古旗 省吾



鎌倉さんぽ

6月中旬ごろに見頃を迎える『山あじさい』をご存知ですか？

その山あじさいについて、
当院の後援団体である育友会
会長 増淵 整治さんのご自宅にお邪魔
して、お話を伺いました。



山薔紅額



木沢の光



鎌倉市
稲村ヶ崎

くれない

笹の舞



青野山



美山八重

育友会 会長

増淵 整治



山あじさいは数億年前北海道辺りで自生し日本列島を縦断する山脈に合断され、太平洋側を山あじさいが南下し日本海側に移ったものを蝦夷紫陽花と別名しています。南限は屋久島、吐喝喇列島辺りまで。特に四国石鎚山系、四万十川水系、大分、熊本、それに富士丹沢も宝庫です。

天からの恵み、「光」「氣」「水」なしでは生命は生まれません。天は生命です。その天に最も近い峻烈過酷な山峡に幾多の苦境に耐え忍び、旬になれば健気な花姿に山人達の心を揺さぶります。この神秘的な清楚で優美な小花は不思議な抱擁と安らぎの心を持っていきます。私はこの小花との邂逅から凛冽の生から脱することができました。私は以心伝心、小花たちと会話が出来ると言ったら信じられますか？

医療法人 沖縄徳洲会

湘南鎌倉総合病院

〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本1370-1

代表：Tel 0467-46-1717(代表) Fax：0467-45-0190

(直通) 健康管理センター：0467-44-1454 人工膝関節センター：0467-46-7172

しょうなんメール編集・発行：湘南鎌倉総合病院 年報広報誌委員会

ホームページアドレス：http://www.shonankamakura.or.jp

SHONAN KAMAKURA

GENERAL HOSPITAL

